

Our Occupation of Japan F. C. Hutley

(オーストラリアの研究雑誌Quadrant掲載)



- 日本の基準では、両県（鳥取・島根）とも人口は少なく、産業も商業もほとんどなかった。瀬戸内海に面したBCOFの人口密集地との交通は貧弱で、岡山から米子に至る鉄道があり、米子で本州西側を回る山陰線と合流した。広島から松江までの道路を除いて、本州横断道路は交通がほとんどなく、封鎖されていなかった。
- 鳥取県は実に僻地で、以下の二点を除いて軍事政権にとってはほとんど重要ではなかった。ひとつはそこが余剰食糧地域であって飢餓に苦しむ首都圏の食糧を供給する役割を果たしていたこと、そして朝鮮に直面していた、朝鮮人が法的には不可能な日本への入国を希望していたことである。

米軍から英連邦インド軍へ



- ・約7日間、米国部隊とパンジャブ第1連隊第5大隊の先遣隊は、聞くところによれば日本陸軍部隊を収容していた巨大な兵舎と一緒にいた。両軍隊間の対比の大きさは想像できなかった。米軍兵士たちは、まるで失業者の群衆のように、粗末な服を着て、手入れもされていないまま、兵舎でぶらぶらしていた。確かに、彼らは米国に帰還する予定だった。インド人部隊は、きちんとした規律をもつ模範的な組織だった。ある日、インド人兵士が自力で訓練の動作をしているところを目撃され、アメリカ人兵士が英語を話す士官に何をしているのか尋ねた。答えは、兵士は自分の訓練の完成度に満足しておらず、それを改善するために練習しているというものだった。息を飲むしかなかった。
- ・軍政は、軍隊または軍政隊長に緊張を与えなかった。わずかな危険もなく、一人で自由に県内を移動できた。地元紙によれば、鳥取の郷土部隊がアッサム州コヒマの戦闘でほぼ全滅したといわれていたのに。

歩兵第121連隊（中部47部隊）の ビルマ防衛戦

第54師団は、1940年8月第10師団の満洲進駐に伴い創設。1943年2月動員下令、同年3月編成完結し宇品、門司を出港、ジャワ、マライ、上海を経て、同年9月ラングーン（ヤンゴン）港上陸。ハ号作戦、完作戦、邁作戦に参加。1945年6月下旬ペゲー山中に転戦、7月に下旬にトンゲー付近においてシッターン河渡河、シッターン河東岸に沿って南下、シュエジン附近で終戦を迎えた。最後の師団長は陸軍中将宮崎繁三郎。終戦後、一部（病馬廠部隊）は、ビルマ（ミャンマー）で連合軍要求作業に従事し、1947年6月9日乗船出港、同年7月3日宇品港着、同月4日復員完結。

出陣時2905人（転出入計3086人）→終戦時1020人

出典：アジ歴グロッサリー「第54師団（兵）」



円護寺にあるビルマ
方面戦没者慰霊塔

歩兵第121聯隊史
「渦巻くシッターン」

米軍情報部

第441防諜隊部隊

進駐軍の部隊変遷

実行部隊

軍政部

情報部

米子

鳥取

米子経済部

旧海軍美保航空基地

中部47部隊（岩倉兵舎）

西町木村邸

???

英空軍第22憲兵隊

S20. 11-
米第6軍第10軍団第24師団
第3聯隊160名

S20. 10-21. 5
米第6軍第10軍団第24師団
第21連隊約200名

県庁・宣教師邸

S21. 2-6
鳥取
軍政中隊

20
10
? 米軍情報部

二ノ丸

21
? 英連邦軍情報部

S21. 5-
英空軍（RAF）第11飛行中隊
英空軍第17飛行中隊
英連邦インド空軍（RIAF）第4
飛行中隊

S21. 5-21. 8
英連邦インドパンジャブ
第1連隊第5大隊

教育会館

S21. 7-24. 6
鳥取軍政部

インド独立
S22年8月帰国

鳥取大学学芸学部などに払下げ

24. 7-11
鳥取民事部

S23. 4-
第34オーストラリア歩兵旅団

23年5月7日
米軍に引渡し

11/30 府県民事部廃止
（地区民事部へ）

12/31 第8軍民事部
→GHQ内民事局

※他に英印軍食糧供給部（米子永興産業）、鉄道管理部（RTO、鳥取駅・米子駅）あり

第441防諜隊部隊

- 1944. 8. 20ブリスベーンで動員、これに伴い廃止された第5227防諜隊部隊の人員・文書・装備を引き継ぐ。1944. 11. 17ホランダディアに移動、1945. 4. 14マニラに移動、[日本へ移動し日本全国に置かれた防諜隊部隊（CIC を統括する中央の部隊となり、連合国最高司令官総司令部民間諜報局（Civil Intelligence Section）の一部門ともなる。](#)
- 上位部隊：1944. 8. 20極東陸軍、1945. 6. 10米太平洋陸軍、1947. 1. 1極東軍
- （出典：国会図書館日本占領関係資料 World War II Operations Reports, 441st Counter Intelligence Corps Detachment）



米CICパッチ

情報部の調査活動

52 県内進駐後の連合軍の行動

・一九四六（昭和二一）年一月一九日

終連総務部一課

発警第四八号

昭和二十一年一月十九日

鳥取県知事 林 敬三印

（警察部長）

内務省警保局長

終戦連絡中央事務局長

終戦連絡大阪事務局長

中国地方行政事務局長

殿

中国各県長官

（県下各警察署長）

渉外事項二関スル件

米第六軍（現在第八軍）第十米第六軍（現在第八軍）第十軍団第二十四師団第二十一聯隊（本部岡山）進駐軍八管下鳥取市元中国第四七部隊兵舎二客年十月二十九日、西伯郡大篠津村元美保海軍航空隊兵舎二全年十一月十二日進駐其後情報官、憲兵、軍政官モ進駐シ其ノ活動ハ最近頓ニ活潑トナリタルガ、本県進駐後本年一月十八日迄ニ於ケル主ナル渉外事項別表ノ通ニ有之
右及申（通）報也

日付	件名	内容
昭和20年10月29日	進駐ノ件	鳥取市四七部隊オスボン少佐以下一九八名
	調査事項	鳥取情報官ヨリ <ul style="list-style-type: none"> ・ 自八月十五日至十月二十六日刑務所収容人員 ・ 十月中ニ於ケル捕縛者数及被告ノ犯罪ノ種類 ・ 留置場ニテ於ケル人数
11月1日	調査事項	鳥取市ムレー情報官ヨリ <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取県在住朝鮮人調 ・ 警察部警察署所在地、部課署長官職氏名、任命年月日 ・ 六ヶ月以内ノ官職氏名 ・ 警察官現在実人員 ・ 基督教会宣教師及信者 ・ 在外日本人調
11月2日	民間武器接收	エヴァンス准尉外一名民間武器接收
11月5日	調査事項	鳥取市ムレー情報官ヨリ <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内発行新聞紙名及発行部数

日付	件名	内容
11月23日	警察兵器調査	進駐軍二名警察保管兵器調査ノタメ来訪
11月25日	警察兵器引渡	オスボン少佐に警察兵器引渡
12月3日	警察部無電機調査	鳥取ムレー情報官警察部無電機調査
12月8日	調査事項	鳥取ムレー情報官 ・外国生レノ日本人
12月27日	公私娼特殊慰安施設等調査	警保局長ヨリ昭和二〇、一二末公私娼免許地区、営業者数、娼妓二千スル各種調査、廃娼運動調其他
12月29日	投書ニ基ク調査及検索	鳥取情報官ペトレ・クキーンハ若桜山本なつ投書ニ係ル今町平井自転車商ハ戦時中ノ勤務先タル軍需会社ヨリ持帰りタル日本刀十数本隠匿、又闇取引シ居ル件二千シ全町役場倉庫検索セルモ現品ナク、又平井ナル該当者ナシ
昭和21年 1月4日	進駐軍用ポンプ提供	鳥取オスボン少佐ノ命令腕用ポンプ二台ヲ設備セヨ

日付	件名	内容
1月4日	調査事項	鳥取情報官ヨリ ・逮捕数調査
1月5日	調査事項	鳥取情報官ペトレ・クキーンヨリ ・現職警察官（巡査部長以上）ノ氏名、拝命年月日、前職調 ・一九四五・八以降一二・三一迄ノ□□□等解雇警察官ノ氏名ト其ノ理由 ・一九四六年第一週ニ於ケル犯罪種類別件数 ・暴動、暴徒等ノ発生並原因ノ詳細
1月5日	鉄道健民修鍊所視察	午前四時頃鳥取停車場司令部輸送主任レスター・アルバートソンハ鳥取駅長、助役、通訳全伴岩井 鉄道健民修鍊所視察、六日午前八時帰鳥
1月7日	警察兵器弾薬海没作業	オスボン少佐ノ命ニ依リ四七部隊ニ保管中ノ警察兵器弾薬ヲ賀露港ニ於テ海没ス、進駐軍ニ名立会
1月7日	学校視察	鳥取進駐軍六名 浦富・岩井国民学校視察 教授状況、武器隠匿状況等視察異状ナシ

日付	件名	内容
1月7日	視察・検挙	鳥取ハンマー中尉外五名通訳一名 <ul style="list-style-type: none"> ・倉吉貸座敷業地域ニ進駐軍立入禁止制札標示 ・倉吉町主要飲食店三ニ対シ進駐軍立入禁止文書交付 ・店頭ノ日本軍人服装ノポスター二枚撤去 ・書店ヨリ軍国主義的書籍数冊押収
1月8日	役場検察	鳥取進駐軍六名網代村役場検索 軍友会旗一旒、警防団長腕章一ケヲ押収
1月9日	学校視察	鳥取進駐軍六名午前十一時河原国民学校視察 科学書二、陸軍報道部地図一押収
1月10日	投書ノ件	鳥取情報官ヨリ日本人ノ借家立退問題ニ干スル投書ニ基キ解決方揭示
1月12日	武器引渡其他命令事項徹底方ノ件命令	午前十時三十分軍政部隊長ウエズレー・N・ゴードン中佐ハ警察部長ヲ四七部隊ニ召喚上記指示
1月10日	軍政官来鳥	軍政官五名（オスボン少佐ヲ含ム）ハ鳥取ニ来リ十四日ヨリ県庁ニテ執務

日付	件名	内容
1月13日	進駐軍ニ対スル飲食物提供禁止命令	鳥取オスボン少佐ヨリ新鮮ナル果物ヲ除ク外料理屋等ニ於テ進駐軍ニ飲食物提供スルヲ禁ズ但ビール、酒ノ提供ハ可
1月14日	神通鼓吹図書取締ノ件	命令鳥取軍政中隊ヨリ命令
1月14日	酒醸造工場等視察	鳥取進駐軍ウイリアム・R・アーレン中尉以下六名河原町川田酒醸造工場視察
1月15日	学校視察	鳥取進駐軍アーレン中尉以下六名八頭郡八上西郷・国英、佐治第一・第二国民学校視察軍国的書籍・写真・ポスター押収
1月16日	ポンプ及消火器供出命令	鳥取進駐軍オスボン少佐ヨリ兵舎ニ手輓ガソリンポンプニ台及消火器一〇筒供出方命令
1月17日	民間武器徹底搜索命令	鳥取情報官ヨリ鳥取市内ニテ進駐軍ト日本刀ニ振ト煙草ト交換セシ事実アリ隠匿民間武器ヲ徹底搜索引渡スベシト命令

ディスカバー・ニッケイ*
 日本人軍と戦争の歴史

EN JA ES PT
 ログイン
 ログアウト
 ログイン

ストーリー | コミュニティ | 資料 | サイト情報

資料 / 日系アメリカ人兵隊体験記録データベース Search results

Ralph Yoohachi Nishime

Search the database
 キーワード
 First name: Last name:
 性別: 写真
 More options

ニッケイ人の名前
 ニッケイ人の名前: 本名、ジョン、ファン、ジョージアオ?
 ニシミ少尉の回顧

性別 Male
 生年 1921-11-18
 月日
 出生 Koloa, Kauai HI, U.S.A.
 種

データベース検索のコツ
 Use **Keyword** to search for words and phrases occurring anywhere in the record other than in a personal name, for example: "amono dume" "Lost Battalion"

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧

- 氏名 Ralph Yoohachi Nishime
- 性別 Male
- 生年月日 1921-11-18
- 出生地 Koloa, Kauai HI, U.S.A.
- 入隊した年 1945-2-1, Fort Sheridan IL
- 入隊のタイプ Draftee (徴募)
- 所属・部署 Army (陸軍)
- 兵役のタイプ War
- 所属部隊のタイプ Support
- 所属部隊 USA -Training Units at Camp Joseph T. Robinson, AR; Camp Ritchie, MD; Fort Mead, MD. **JAPAN - 441st Counter Intelligence Corps Detachment, GHQ, Far East Command; HQ, FEC Liaison Group , 8240 Army Unit, MIS**
- 特殊技能 Infantry and Military Intelligence
- 最終目標 USA - Camp Joseph T. Robinson, AR; Camp Ritchie, MD; Fort Mead, MD; Japan

「米軍情報部は昭和20年10月29日進駐、事務所を県庁、観光ホテルに移転せるも昭和21年4月3日鳥取市西町木村清一居宅を接收、5月21日同所へ移転、現在 (S22. 4) に至る。 (隊長ニシミ少尉)」

(「内務部長引継書」 県史現代1収録)

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧



- 鳥取県では、担当官や特別企画官のほかに、主に警察署長、主任検事、場合によっては知事との県職員との連絡や、鳥取県に駐留していた陸軍行政部やイギリス軍部隊との連絡を担当しました。私たちの事務所では、共産党指導部の活動や、当時活発化していた労働組合の活動を詳細に監視しました。我々が任務を遂行するのを助けるために、我々は警察から毎日報告を受けた。また、現地の報道機関からの主要なニュースを翻訳するために日本人を雇いました。また、信頼できる通訳を養成しました。元警察官で、日本政府関係者や地域の他の指導者との交流を深めるのに貢献してくれました。警察のアシスタント・チーフは私たちのオフィスでいつも電話をかけてくる人で、私は彼と良い仕事の間係を築きました。このような背景のもと、私たちの担当分野における活動を、本社に十分かつ正確に伝えることができました。

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧



- 東京に着いてから、私は説明のために数週間そこで過ごし、それから京都(第4CIC州)に数週間、そして最後に神戸(第92メトロポリタン・ユニット)に行き、そこでCICエージェントとしての仕事を始めました。1946年6月、私は第二外国為替手数料を受け取った後、岡山市(第7CICエリア)に転勤になりました。三か月後、鳥取市(第7CICエリアのサブオフィスであるCICエリア7A)の担当役員と特別企画官に任命されました。「日本の習慣、人、言葉に親しむこと。現在の安全保障上の規制を考慮し、慎重に対情報活動を監視する想像力と判断力を持つ。鳥取県での任務は、最もデリケートで難しい任務であり、対情報収集の観点から最も重要でした。」その立場は、7時間以上の移動時間を要するCICエリア7の司令官のみに報告する、極端な裁量と判断の自由度を要求する。私は、1950年2月まで鳥取に滞在し、その後、札幌第6CIC地区(北海道)に移動し(以下略)

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧



- 鳥取市の生活環境はとても良かったです。私たちは、従業員全員が十分な家具を備えた私邸を引き継いだ。全ての家事は、食事の準備を含め、現地の職員が行った。鳥取などの辺境地を週に一度ずつ視察するアメリカ陸軍のクォーターマスターは、部隊に食料(私たちのスタッフや全ての先住民族の労働者に十分な食料を供給しています)を気前よく供給した。私たちは旅行の必要条件をすべて満たすのに十分な数のジープを提供された。娯楽のために、軍は私たちに映写機を提供し、辺鄙な地域にアメリカ映画を配布した。また、日本の政府関係者や地域社会の人々が主催するパーティーにも頻繁に招待され、本部があらかじめ用意した資金でお返しをしました。もちろん、これらの接触の多くは業務目的でした。私たちは野球チームを結成し、いくつかの地元チームと試合をした。冬の間はスキーをたくさんした。私たちが訪れることができるバーやナイトクラブもたくさんありました。

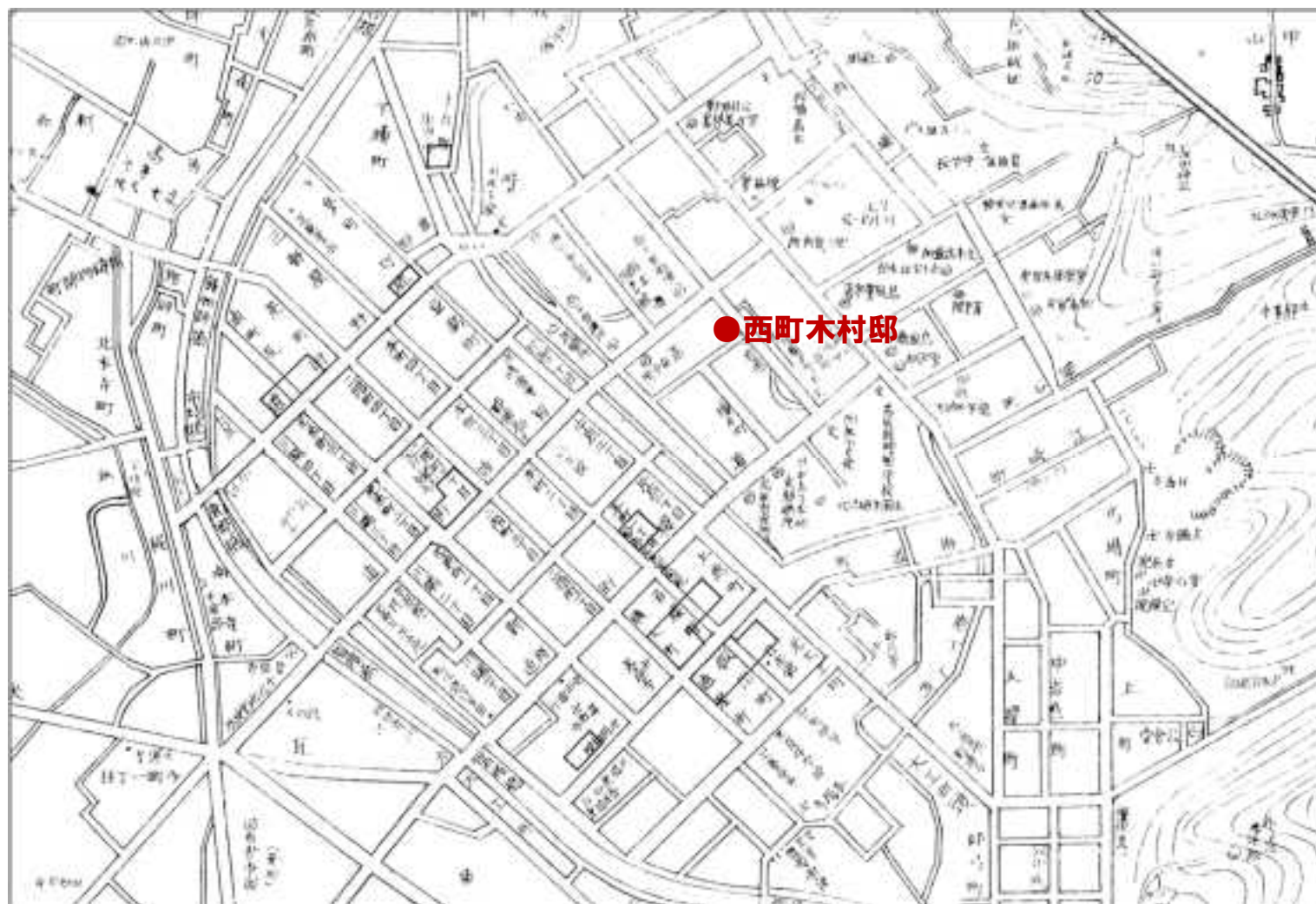
米軍情報部隊長
ニシミ少尉の回顧

「従業員全員が十分な家具を備えた私邸を引き継いだ」

接收住宅 西町木村邸

昭和21年3月30日 接收 (TTRG-53)

昭和25年5月16日 使用解除



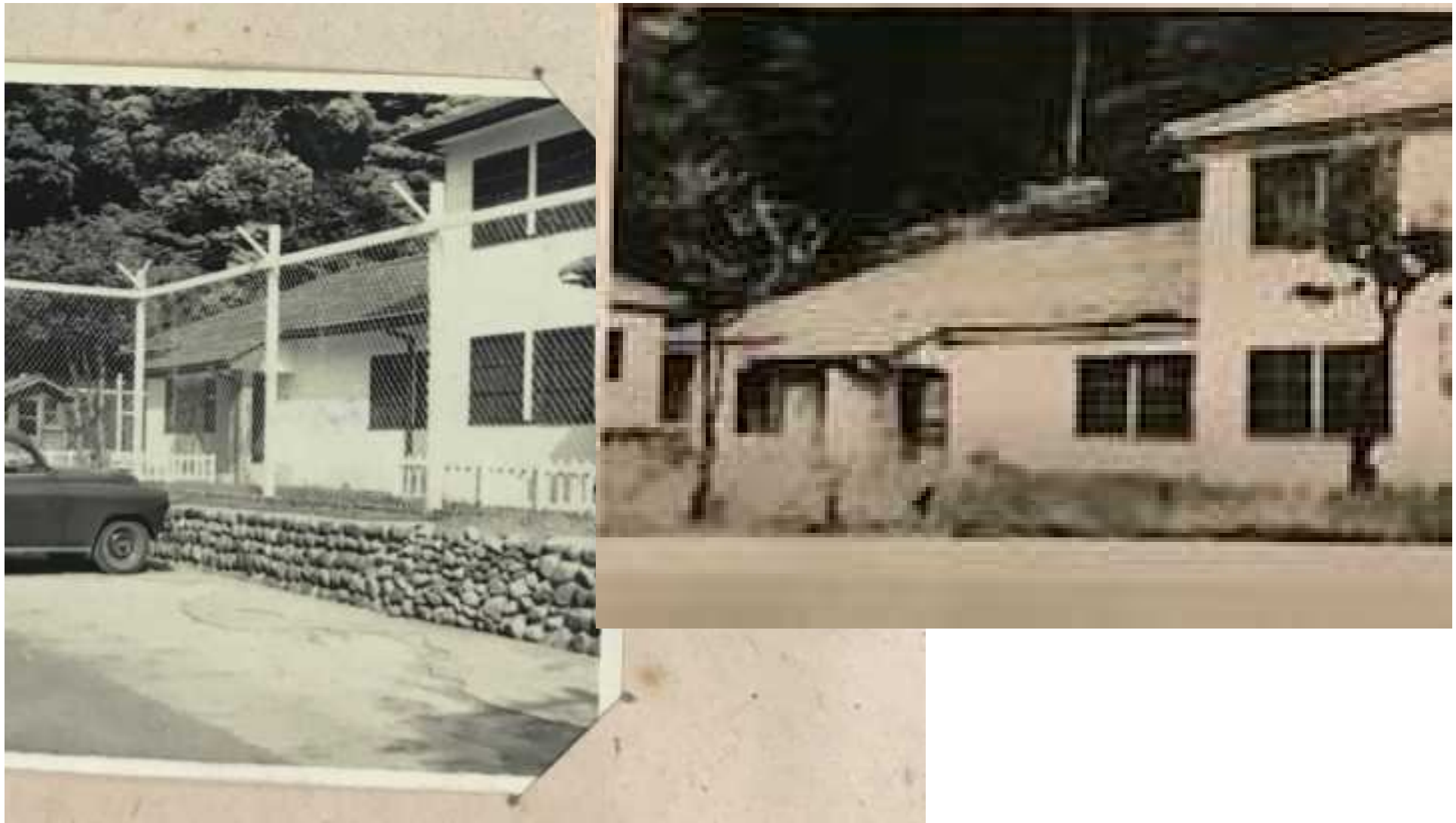
木村邸接收解除後s25.5.6 →元軍政部将校家族用住宅に移転か

「S27.5.24
鳥取情報部隊本部」
(個人蔵)



「S33.4~45.10.2 鳥取県理美容学校旧校舎」
(上田勝利さん提供)





**窓枠、屋根の傾斜が酷似
情報部本部時代はフェンスに囲まれ、国旗掲揚台
らしき支柱2本がみえる。隊長車パツカードか。**

米軍撮影写真にみる将校住宅（鳥取情報部）



昭和26年11月2日撮影写真には
中央1・左右2翼の建物2棟
が写る。

現在の地図と重ねてみると…



英軍情報部

進駐軍の部隊変遷

実行部隊

軍政部

情報部

米子

鳥取

米子経済部

旧海軍美保航空基地

???

英空軍第22憲兵隊

S20. 11-
米第6軍第10軍団第24師団
第3聯隊160名

S21. 5-
英空軍 (RAF) 第11飛行中隊
英空軍第17飛行中隊
英連邦インド空軍 (RIAF) 第4
飛行中隊

S23. 4-
第34オーストラリア歩兵旅団

23年5月7日
米軍に引渡し

中部47部隊 (岩倉兵舎)

S20. 10-21. 5
米第6軍第10軍団第24師団
第21連隊約200名

S21. 5-21. 8
英連邦インドパンジャブ
第1連隊第5大隊

インド独立
S22年8月帰国

鳥取大学学芸学部などに払下げ

西町木村邸

20
10
? 米軍情報部

二ノ丸

21
? 英連邦軍情報部

県庁・宣教師邸

S21. 2-6
鳥取
軍政中隊

教育会館

S21. 7-24. 6
鳥取軍政部

24. 7-11
鳥取民事部

11/30 府県民事部廃止
(地区民事部へ)

12/31 第8軍民事部
→GHQ内民事局

※他に英印軍食糧供給部 (米子永興産業)、鉄道管理部 (RTO、鳥取駅・米子駅) あり

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

Posted to Tottori: Professor Michael Screech' s Memories of Rural Post-war Japan. (桜文論叢：日大法学部、2019年3月発行) ※澤田晶子さん訳
<https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/treatise.html>

Screech氏が鳥取に着いたときは（S21春頃か）、城はすでに米
国陸軍の占領軍に接收されていた。米軍は城の下部（山下の
丸）を補修し、軍人の居住用にプレハブの建物を建てていた。
城にはほかに、大日本帝国軍が戦前、戦時中に使用していた木
造兵舎もあった。

軍のジープを道路に駐車し、急な坂を上って三番目の城壁（二
の丸）に上がらないといけなかったが、健康維持に役立った。

鳥取市民は戦争で大きな被害を受けなかったことを幸いととら
えていると、Screech氏は感じた。43年の地震からの復旧も進ん
でいた。とはいえ、食も仕事も不足し、復員兵も多く、市民は
苦勞していた。

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

占領軍は多くの労働者を雇い、Screech氏の宿舎でも素晴らしい、笑顔の絶えないスタッフを雇った。BCOFの食糧の多くはオーストラリアから送られており、余るほどあったので、宿舎で働く日本人スタッフにもおすそ分けした。宿舎では10人強の地元民を雇っていた。地元のかわいい子供たちにもお菓子をあげた。

地元の人からはミカンをよくもらい、これが特においしかった。

公務員が公費で食事をできるのは占領軍と一緒にいる時だけという規則ができたため、週に3回は（地元の役人の）食事会に呼ばれた。しかし、選挙時は占領軍がどこかの陣営に肩入れしているように思われぬようにしないといけなかった。

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

鳥取は呉よりのどかだったが、問題も起こった。1946年5月、倉吉近くの占領軍が使う道路に大きな石が20個置かれた。1947年6月、占領軍の乗った列車に投石があったがけが人なし。Screechはこれらを覚えていないが、米軍のバンダーツィープ氏（1947. 6～48. 11鳥取軍政部隊長）と毎日連絡会議を持った。インド兵も少数おり、Screech氏と緊密に連携したが、宿舎は城の別の場所にあった。インド兵は来るイギリスからの独立のことに気を取られていたようだった。インドの独立のニュースが届くと、母国に帰りたがった。

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

鳥取で大火が起こった際の地元の人への対応、特に市外から駆け付ける看護婦のグループが印象的で、Screechは起立して敬礼を送った。兵士の遺骨が家族の元に帰還すると分かれば、必ず街に出て、遺族が抱える遺骨の入った四角い箱が通り過ぎるまで敬礼した。

大学生の間で読まれている本をいくつか借り、時間をかけて読んだが面白かった。その一冊が「きけわだつみの声」。

現地の人と話をすることで、日本の様々な側面を積極的に知ろうとした。戦地での戦いについても率直に質問したが、説明できないといわれた。

1947年BCOFが日本での駐留を縮小、Screech氏は鳥取を離れた。その際、宿舎の使用人が感情をあらわに泣き出し、丘を駆け下りて、Screech氏らの一団が閱兵場を離れ右に曲がるのを見送った。不思議な体験だった。



まとめ

鳥取で進駐軍はなにをして いたか

実行部隊

武器接收、治安維持、学校視察、皇宮警備（インド軍）

情報部隊

警察、刑務所、外国人、報道機関などの事情調査

軍政部

民主化監視（選挙、福祉、衛生、教育、労組など）

.....

鳥取の印象

戦争被害のない平和な県、県民との友好的な関係

日本占領における鳥取県の位置

都市部への食糧供給基地、朝鮮人の密航監視